

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

新規開拓!! 「千早地域文化創造館」



谷端川の始まり、粟島神社の弁天池で解説

(公財) としま未来文化財団の千早地域文化創造館(以下、創造館)から講師依頼を受けて「旧長崎町なるほどゼミナール」という講座で遺跡のお話しをしてきました。創造館を中心とした豊島区西部地域を多方面からアプローチすることで、その地域についてより深く学べる内容となっています。今回はその2期目で、全5回の連続講座で行われました。第3回までは、考古学とは違う分野の研究者による地域文化についての内容で、私たちは最後の第4回(6/14)と第5回(6/21)の2回分を担当しました。

第4回は、当会理事の橋口定志が担当し、座学で行ないました。豊島区西部に位置する遺跡、目白の旧感応寺境内遺跡や学習院大学周辺遺跡、西武池袋線椎名町駅近くの長崎一丁目周辺遺跡などを中心に、旧石器時代以来この地域で活動していた人々の痕跡が発掘調査により明らかになってきたことについてお話ししました。その中で、創造館の近くに位置している長崎一丁目周辺遺跡から中世の遺跡が発見された理由について、その南側を通る清戸道とそれと交差する板橋へと続く古道や付近を流れる谷端川など地理的背景が起因して



橋口理事の講義

いることなど、豊島区の埋蔵文化財包蔵地（行政が指定した遺跡の範囲）が現在の場所に位置している理由についてお話ししました。

第5回は、前回の話しを元に、実際に長崎一丁目周辺遺跡とその一帯を巡り歩きながら、発掘調査を行なった主な地点についてのご紹介をしました。案内役は私が務めました。また、現在は道路の下に暗渠化されている谷端川の流路や、清戸道と交差し、長崎一丁目周辺遺跡を縦断する古道も歩き、目で見て、身体で体感し、遺跡がどういった場所に位置しているかを受講生と一緒に考えながら巡りました。最終的には谷端川の水源である栗島神社の弁天池まで歩きました。暗渠化する前の谷端川の様子を、古くからこの地域にお住まいの参加者の方から私たちがお聴きするという場面もあり、私たちにも貴重な機会となりました。最後には、創造館で開催中の「千早まちかど遺跡ミュージアム」展の展示解説も行ないました。

今回の講座は、他分野の方との共同の講座でしたが、千早の創造館で開催した初めての遺跡講座でした。参加者の方は、初めて当会の遺跡講座を受けられた方が大半でした。講座の最後にとったアンケートには、地元で遺跡があることを初めて知ったといったご感想を頂きました。近年は展示や講座などを開催してきましたが、まだまだ遺跡の周知活動を行う余地があることを実感しました。時間も人員も予算も限られていますが、今後も、としま未来文化財団や教育委員会との協働関係をより深め、より多くの方々に豊島区の埋蔵文化財をより身近に感じていただけるような活動を展開してゆきたいと思います。最後に、「千早まちかど遺跡ミュージアム」展は8月3日まで開催期間を延長することとなりましたので、まだご覧になっておられない方も是非ご来場ください。

（山崎吉弘）



千早地域文化創造館で展示解説を行いました。

勤労福祉会館文化カレッジ
雑司が谷地域文化創造館講座

～講座のお知らせ～

今年度は『考古学講座』と『戦国の城を歩く』の二つの人気講座を2カ所で開講します。勤労福祉会館では『考古学講座』を開講します。今年度は9～11月に3回に分けて行なう予定です。内容は、遺跡巡りを基本とした街歩きとなります。巣鴨・駒込地域と谷端川沿岸の遺跡を歩く予定で計画しています。

また「戦国の城を歩く」は、11月と12月の2回、雑司が谷地域文化創造館で開講します。昨年度、勤労福祉会館の講座で訪れた埼玉県寄居町の「鉢形城」を歩く予定です。昨年度、行くことのできなかった場所を回りますので、昨年度参加された方も奮ってご参加ください。

詳細は「広報としま」及び「財団ニュースみらい」をご覧ください。当会賛助会員の方には、優待があります。受講される方は、当日受付にお申し出ください。



昨年度の講座の様子

大学生が整理作業を見学に訪れました。



巢鴨遺跡から出土した遺物の接合作業を見学

去る6月7日（土）に、学習院女子大学国際交流学部の2年～4年生の学生さんが、当会の事務所にて校外授業として見学に訪れました。私たちの遺跡の調査や講座などで日頃お世話になっている、阿部常樹先生（動物考古学）の講義の受講生のみなさんです。

施設では、豊島区教育委員会文化財係の成田学芸員が、実際に私たちが発掘調査で記録した図面や写真などを使い、基本的な発掘調査の方法や整理の仕方、出土遺物の見方などを説明しました。また巢鴨遺跡から出土した遺物の接合作業を見学し、実際に出土遺物にも触れてもらいました。生徒の皆さんは、初めて触れる遺物に緊張しながら、熱心に説明を聞いていました。

阿部先生より見せていただいた、生徒さんの感想の一部をご紹介します。

◎今まで博物館へ行ったことはありますが、今回の経験で展示物を見る目が変わったと思うので、夏休みにでも行ってみたいと思います。（2年）

◎「スガモ」と書いてあったビンが印象に残りました。大きくて薄い食器や、急須など様々な物が手作業で復元されていて感動しました。発掘調査の裏側や苦労を知れてよかったです。（2年）

◎巢鴨に行って、出土したものをあそまできれいにくっつけたり、また、ちょっとしたデザインの違いで年代を見分けたりするのはすごいなと思いました。とても根気強くやらなければなと感じました。（3年）

◎先日の学外授業では、初めて聞くお話ばかりで貴重な体験になりました。これから博物館を訪れた時の見方が変わると感じました。（3年）

◎あらためて、文献からだけでなく、遺物からも当時の状況を読み解くことができるのはおもしろいと感じた。（4年）

◎実際の出土品に触れながら、現場で活躍している方のお話を聞いたのはとても貴重な体験でした。（4年）

◎実物をあそまで気軽に触れる環境があるとは思っていませんでした。今にも崩れてしまいそうな印象を受ける物は触れるのが怖かったです。（4年）

この体験から、私たちの活動や埋蔵文化財の重要性、地域の歴史などに興味をもってもらえれば幸いです。（榎本邦人）

賛助会員向けイベント

西巢鴨～巢鴨をあるく

4月6日（土）に賛助会員向けのイベントとして町歩きを開催しました。今回は西巢鴨駅～巢鴨真性寺までのルートを歩きました。途中、巢鴨地域文化創造館で開催していた「豊島区の遺跡調査25年」の展示解説も行いました。

旧中山道に沿ったルートには、種屋や庚申塚など、地域の歴史を知るうえで重要な文化財が残されています。日頃遺跡の調査に携わっている私達は、地上の文化財に接する機会が多くなく、こういったイベントを通して、改めて参加された方々

と共に、地域の歴史を勉強できることは私たちにとっても、良い刺激となります。今後もこのようなイベントを開催したいと思います。

（榎本邦人）



千川上水調整池の跡で説明

ソボクな疑問、お答えします

教えて！ イセキ先生！！その2

～イセキとカセキ～

先生のパソコン、デスクトップ画像が恐竜の化石なんですネ。



カッコいいだろう？これはフクイラプトル・キタダニエンシスの全身骨格なんだ。福井県で見つかったからフクイラプトル。白亜紀の肉食恐竜で、獣脚類の一種なんだけど、この巨大な爪を見てごらん・・・

なんか面白そう。こんど授業で恐竜の話も聞きたいです！



いやいや、恐竜は僕の趣味というだけで、授業では扱わないよ。古生物学という別の研究分野になるからね。うちの学校だと教育学部か理学部の授業にあるかもしれないよ。地質調査でお世話になっているイワオ先生に相談してみるかい？

あれ、考古学って歴史学のサブジャンルだって授業で習いましたけど、恐竜も昔の歴史だし、化石とか調べるのは考古学じゃないんですか？



考古学や歴史学は、人間の過去を明らかにすることがまず目標だからね。恐竜は考古学の守備範囲外なんだ。それに考えてごらん、恐竜と化石は同じものではないよ。化石の中には恐竜以外の動物や植物のものがたくさんあるし、中には考古学の研究対象となるものもあるんだよ。

そっか！マンモスとかナウマンゾウとか、人間が狩ったり食べたりするような生き物なら考古学ですね？授業でマンモスの話をしてください！冷凍マンモスって食べられるますか？



ヨシノちゃん・・・好奇心は素晴らしいけど、「貴重な資料」ってところをまずよく理解しておこうね。

参照 HP : <http://www.fukuiweb.net/index.cgi?page=%A5%D5%A5%AF%A5%A4%A5%E9%A5%D7%A5%C8%A5%EB>
<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/dino/faq/0022.html>

◎登場人物紹介◎

伊関マモル先生



としま文化大学講師。考古学の専門家だが、講師としては新米。得意分野は弥生・江戸時代。

染井ヨシノちゃん



としま文化大学1年生。生活文化史専攻のため、「考古学者」＝「インディ・ジョーンズ」だと思っている。
※としま文化大学は想像上の大学です。

【編集後記】

編集・発行



特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

6月から、遺跡の有無を調べる試掘調査が、例年以上に続いています。暑さに負けず、がんばります。(2)

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巣鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@atoshima.ne.jp

ホームページアドレス : <http://www.toshima-iseki.org/>

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：千葉弘美・菅沼晶子

「つたのは通信」の由来：蔦は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蔦の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。